## 「大腿骨近位部骨折患者における足部変形側と受傷側との関係」について

### １．研究の対象

2026 年 9 月より 2027 年 9 月までに大腿骨近位部骨折を受傷し当院で加療された方

### ２．研究目的・方法

大腿骨近位部骨折は、高齢者において転倒を契機として発生することが多く、受傷後の身体機能や日常生活動作能力の低下につながる重要な疾患です。そのため、大腿骨近位部骨折の予防には、転倒に関連する身体的要因を把握し、介入可能な危険因子を検討することが重要です。転倒には筋力やバランス能力などの全身的な身体機能に加え、下肢骨の配列や足部形態などの局所的な要因も関与すると考えられています。特に外反母趾などの足部変形は高齢者に多く認められますが、足部変形の左右差と大腿骨近位部骨折の受傷側との関連については十分に明らかにされていません。臨床において大腿骨近位部骨折患者の足部を観察すると、外反母趾角の大きい側と骨折側が一致する症例がみられることがあります。このことから、足部変形の左右差と大腿骨近位部骨折の受傷側との間に関連が存在する可能性が考えられます。

本研究の目的は、大腿骨近位部骨折患者さんを対象として、両側の外反母趾角および足趾変形を評価し、足部変形の左右差と大腿骨近位部骨折の受傷側との関連を明らかにすることです。

本研究により、足部変形の左右差と大腿骨近位部骨折の受傷側との関連が示されれば、大腿骨近位部骨折患者さんに対する足部評価の臨床的意義を示す基礎資料となる可能性があります。また、将来的には、生活期にある高齢者や大腿骨近位部骨折を経験していない方に対する転倒リスク評価において、足部の形態的特徴を評価することの有用性を検討するきっかけとなることが期待されます。

方法は電子カルテより必要な情報を収集し、外反母趾角の左右差を算出、足趾変形を確認し、外反母趾角に左右差がある場合、外反母趾角が大きい側と大腿骨近位部骨折受傷側の一致率を算出し、外反母趾角の左右差と大腿骨近位部骨折の受傷側との間に関連があるか明らかにします。

研究期間は、病院長による承認後～2027年9月30日までです。

### ３．研究に用いる試料・情報の種類

年齢、性別、身長、体重、BMI、診断名、既往歴、外反母趾角、外反母趾角左右差、足趾変形(hummer toe , claw toe , mallet toe)です。

### ４．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：
住所：磐田市大久保 512-3　場所：磐田市立総合病院　リハビリテーション技術科
Tel　：0538-38-5000（代表）　研究責任者：小中澤　聡